

道セラルルニ至レリ

四、東京ニ於テ幣原男ト意見ヲ交換シタルカ其ノ内容ハ九

月二十五日發表ノ同男宛電報二通～外ハ通ナリト云徃電

五、結局自分ノ農田、田本ノ蘭州開

〔Information〕 ヲ得ソトスルニアリテ幣原男若クハ其

ノ他日本当局ト何等ノ交渉ニ入リタルコト無ク從テ自分

ノ渡日目的ナリトシテ傳ヘラレタル諸報道ハ南京ノ放チタル虛偽リ

付二 閻錫山大連脫出事件

928 昭和6年6月22日 高木中日実業株式会社副総裁より  
谷亞細亞局長宛

閻錫山の出馬を求める西北、山西軍の使者往

来に関する情報について

昭和六年六月二十二日

中日實業株式會社

副總裁 高木 陸郎

外務省

拜啓初夏ノ候益々御勇健奉賀候陳者

閻錫山ノ動靜二就而

在大連弊社囑託宮崎嘉一氏ヨリ掲題ニ關スル情報第一、第二送附越有之候間御参考迄ニ右寫供貴覽候 敬具

昭和六年六月九日

大

宮崎 嘉一

昭和六年六月十六日

大連

敬  
具

東  
京

高木  
陸郎様

拜啓其後益々御勇健奉賀上候掇而  
閻錫山ノ動靜ニ就而

閻錫山、劉靜、郭雨（其一）

先日弊狀テ以テ張學良ヨリ壓迫ノ爲メ近ク渡日ヌルヤモ不  
計ト申上置候其後御承知ノ通り廣東、廣西、續イテ孫殿  
英、石友三等ノ反蔣旗色濃厚トナリ閻氏モ此機ニ乘ジ再出  
馬ノ折モアランカト内々期スル處アル如ク暫ク時局ノ見定

テ西北、山西軍ノ使者當地ニ參リ閻氏ト何事力凝議致シ居  
ルヤニテ閻氏ガ世間ニ對シ彼等ト全ク無關係ナリト繰リ返  
シ聲明致シ居ルモ何人モ是レヲ信ズル者ナク閻氏今後ノ行  
動ヲ注視致シ居候疑問ノ同氏今後果シテ如何ナル行動ニ出  
デ可申ヤ所詮再起ノ望ミナシト一部ノ人士ヨリ見クビラレ  
居ルモ支那ノ事故如何ナル御鉢ノ廻リ合セニテ擡頭スルヤ  
モ不計同氏ノ今後ヲ興味ヲ以テ注視罷在候何レ其内變リタ  
ル事有之候ハゞ再報可申上候

宮崎 嘉一

東京

高木 陸郎様

拜啓

## 時局ト閻錫山ノ動靜（其二）

新聞ニテ御承知ノ通り時局ハ當地亡命客連ニ取り大分面白ク轉廻シ來リ目下山西ヨリ閻氏ニ寄セラル電信、密使榆ノ齒ヲ引ク如ク専ラ閻氏ノ出馬ヲ促シ來リ氣早ノ部下ノ一部ニテハ太原迄ノ途中潛行方法迄考へ居リ候モ（學良病氣ノ爲メ十分諒解ヲ得ル事出來ズ途中萬一ヲ恐レ歸京スルトセバ潛行ノ外無之如クニ候）閻氏ハ不相變猶豫不決煮ヘキラヌ爲メ部下一同ハ齒痒キ思ヒヲ致シ居リ候

察スルニ同氏トシテハ今少ク南北ノ形勢ヲ見定メ度依例自重ニ自重ヲ重ネ決心セザル儀ト存候

閻氏ハ他ノ亡命軍閥ノ如ク舊部下ト絶縁シタ譯ニハ無之重要ノ事項ハ不相變相談ニ乘リ居リ又相當軍資金ヲ擁シ居リ候ニ付歸京スレバ舊時ノ如ク山西全軍ニ對シ指揮命令ヲ發シ得ル由ニ付同氏ガ歸京スルト否トハ反蔣派ノ勢力消長ニ多大ノ影響有之ハ申ス迄モ無キ處ニ候敵モ味方モ同氏今後

ノ動靜ニ多大ノ注意ヲ拂ヒ居ル儀ニ候

最近東北ガ關内向ケ俄カニ増兵ヲ決行シタル眞因ニ付當地某要人ノ入手シタル情報ニヨレバ

石友三ノ代表先般奉天ニテ張作相ニ面會ノ際石友三ハ軍ヲ引イテ故鄉吉林ニ歸リ度シトテ同意ヲ求メタルモ作相ニ一言ノ下ニ列ネラレ代表ハスゴスゴ歸途ニ就キタル由

石友三ハ學良ノ甥張學成ヲカソギ吉林ノ一部ニ地盤ヲ得ント企圖シタルモノニテ札付キノ學成入吉スレバ如何ナル事件ガ作相軍トノ間ニ起ルヤモ不知又作相ノ位置モ危険ト可相成ハ自然ノ理ニ有之候ニ付作相ガ一言ノ下ニ拒絶シタルハ道理アル事ニ候兎ニ角石友三ハ機會アレバ東北ノ地盤ヲ得ント狙ヒ居ル眞意明カニ東北ニ讀メタルニ付今ノ内ニ石友三軍ヲ叩キ付ケント俄カニ增兵シタルモノナル由

一說ニハ石友三ノ秘書張雲貢（東北ヨリ推薦シタル者）ハ石友三ノ秘密ヲ巨細學良ニ密報シ居ル事石友三ノ知ル處トナリ直チニ銃殺セラレタル旨東北側ヘ情報アリ爲メニ東北側大イニ怒リ討石ノ軍ヲ出ス事ニ決心シ増兵ヲ敢行シタル次第ナリ云々

トノ說モ有之何レガ眞相ナルヤ今以テ確然ト判明不致候モ何レニシテモ東北ト右友三軍トハ最早水炭相容レザル仲ト相成リ如此ニテ五月節經過ト共ニ近ク一戰ハ免レザル如クニテ今後ノ支那ハ南ハ南、北ハ北ト相共ニ全國的動亂ノ巷ト相成ル兆候歷然タルモノ有之候

此間ニ處シ閻錫山ノ派出所進退ハ興味百パーセントヲ以テ世人ノ凝視スル處ニ有之候處果シテ如何ノ態度ニ出デ可申ヤ

今後ニ徵シ度憶病ノ閻氏トテ何レハ大局ノ定マル頃ニ出馬ヲ聲明スルニアラザルヤト想像サレ候兎ニ角支那本部ノ動亂、東北ノカラ空キ等曾テ申上候如キ吾ガ滿蒙政策ノ根本的解決（滿蒙ヲ特殊地域トスル案）ノ機會ガ刻々ニ迫リ來リツ、アル如クニ感ゼラレル此際閻、孫ト手ヲ握リ或ハ新進ノ石友三ト相呼應シテ大事ヲ決スル事モ妙カト被存候何卒御熟慮ノ上適當ノ機會ニ吾ガ要路ニ可然御獻策願フモノニ候

右不敢申上度

勿々

第六五四號

上海 7月18日後發  
本省 7月18日後着

## 宋子文より日本人の閻山西行援助説の真偽問合せについて

十七日宋子文ト會見ノ際宋ハ閻錫山カ此際山西ニ赴クコトハ北方ノ形勢ニ鑑ミ非常ニ重要視スル處ナルカ日本人中ニハ頻リニ同人ノ山西行ニ付活躍シ居ル者アリ或ハ飛行機ニテ同人ヲ送リ届ケントシ居ル由ヲモ聞キ及ヘリト述ヘタルニ付本官ハ右ニ付テハ過日モ御話セル後情報ヲ調ヘタル力閻力飛行機ニテ退去シ度シトノ希望ヲ有シタルハ事實ノ如シ尤モ右ハ日本人側カ之ヲ拒絶セリ之ヲ要スルニ飛行機ニテ退去スルカ如キハ日本官憲ノ許可ナクシテハ行ハレサルニ付絶対ニ出來難キコトナリト答ヘタリ

然ルニ宋ハ實ハ折入ツテ御願スル次第ナルカ此際幣原外相ノ力ニテ閻錫山カ退去セサル様取計願ハレ間敷ヤトテ熱心ニ繰リ返シ述ヘタリ依テ本官ハ關東廳ニ於テ内亂紛争ノ此際關東州ヲ陰謀ノ策源地タラシメサル趣旨ヨリ閻ニ對シ自

トハ出來得ルヤモ知ラサルモ力ヲ以テ其退去ヲ阻止スルコ  
トハ困難ナリトノ旨ヲ答へ置ケルカ宋ニ於テ甚タ熱心ニ頼  
ミ居タル次第モアルニ付此際關東廳ニ於テ閻ニ對シ適宜前  
記ノ趣旨ニテ勸告方取計フ様致度シ

北平、奉天、天津、廣東、青島、濟南、關東長官へ轉電シ  
南京、上海へ轉報セリ

930 昭和6年7月21日 在中國重光臨時代理公使宛（電報） 壁原外務大臣より

本省 7月21日後8時55分發 在中國重光臨時代理公使宛（電報） 壁原外務大臣より

閻に対し閩東州を政治的策源地にせざる様予

て説示しあるについて

本省 7月21日後8時55分發

第二四七號（暗、至急）

貴電第六五四號ニ關シ

曩ニ閩錫山側ヨリ日本航空輸送會社大連出張所ニ對シ飛行機一臺購入方申出アリタルヲ以テ當方ニ於テ右賣却方差止め置タル經緯アリ尙閻ニ對シテハ關東州ヲ政治的策動ノ根據地トセサル様豫テ説示シアル次第ナルカ州内ニ於ケル同人ノ行動ニ付テハ此ノ上共注意ヲ怠ラサル意向ナリ

北平、奉天、天津、濟南、青島、南京、廣東、關東長官ニ  
轉電セリ  
上海ニ轉報アリタシ

931 昭和6年7月23日 在中國重光臨時代理公使宛（電報） 壁原外務大臣より

宋子文に対し閻が閩東州を離れたとの情報が事実でない旨回答について

本省 7月23日前發 南京 7月23日前發

第六六九號

貴電合第四二五號ノ情報ハ廿二日宋財政部長ニ内報シ置キタルニ部長ハ之ヲ謝シタル上最近閻ハ關東州ヲ離レタリトノ情報アリタルカ事實ニ非スト考フ旨ヲ語リタルニ付本官ハ右ハ全然事實ニ非サルヘキ旨答へ置キタリ  
奉天、天津、濟南、青島、北平、廣東、關東廳へ轉電シ南京、上海へ轉報セリ

932 昭和6年7月25日 塚本閩東長官より

幣原外務大臣宛（電報）

大日本航空株式会社大連出張所支配人元陸軍少佐  
麦田の飛行機による閻の帰省援助計画について

閩東庁 7月25日後發 本省 7月25日後着

大日本航空株式會社大連出張所支配人陸軍豫備航空兵少佐  
麥田比良雄ハ曩ニ大連滯留中ノ閩錫山側ヨリ飛行機一臺購入ノ申入ヲ受ケ遞信省ノ諒解ヲ求メ更ニ外務大臣ノ御意図ヲ伺ヒ出シ處外務省ヨリ御差止ト相成リタルニ因リ其儘トナリタルモ最近支那ニ於ケル各地反蔣派ノ聯絡成リ廣東政府成立石友三軍ノ奉天派ニ向ツテ攻勢開始等ニ連レ閻モ急キ山西ニ歸省シ之レト呼應シテ蔣張ノ天下ヲ覆ヘサントスルノ念切ナルモノアリ其歸路ニ付頻リニ苦慮ヲ重ネツツアリト思ハル節有リ從ツテ再ヒ飛行機ニテ天津又ハ太原ニ至ラントノ計劃ヲ立テ閻ニ進言スル者アリト雖モ閻トシテハ未タ其ノ決心付カサルモノノ如キモ出來得ル限り歸省ヲ急キ居ルノ風無キニ非ス注意中ノ處最近麥田少佐ハ日本國家ノ立場ヨリ見テ蔣張合作ノ結果益々日本ヲ不利ニ陥ラシ

後備陸軍歩兵少佐宮田稔ハ孫傳芳ノ紹介ニテ鄒魯ヲ通シテ廣東政府ニ招聘方ヲ要請中ノ處二十二日軍事諮詢ニ任命スル旨ノ入電アリタリトノ事ニテ宮田ハ鄒一行ト共ニ天津ニ

赴キ當地ノ同志ト行動ヲ共ニスルモノト思料セラル

閻の大連脱出に關東軍參謀および予備航空少佐の関与せしは遺憾とその経過報告について

933 昭和6年8月6日 塚本關東長官より  
幣原外務大臣宛（電報）

旅順 8月7日後発  
本省 8月7日後着

### 閻が五日未明日本航空大連出張所支配人元陸

軍將校搭乗の飛行機で大同へ帰着について

関東府 8月6日後発

本省 8月6日後着

本省 8月7日後着

（至急親展）

豫テ閻錫山ノ動靜ニ付テハ周到注意中ノ處昨五日未明夜陰ニ乘シテ金秘書ト共ニ日本航空會社大連出張所支配人豫備航空兵少佐麥田比良雄搭乗ノ航空會社飛行機ニテ周水子飛行場出發二千乃至三千米ノ高度ニテ他ニ察知セラレサル狀態ノ下ニ大同迄密ニ送ラレ飛行機ハ午後六時廿五分周水子ニ歸還セルノ事實ヲ發見セリ

事件ハ極秘ニテ慎重調査中ナルモ不取敢

934 昭和6年8月7日 塚本關東長官より  
幣原外務大臣宛（電報）

塚本關東長官より

（電報）

於テ北寧線ヲ横斷一路大同ニ向ヒ逆風ノ爲豫定ヨリ一時間遅レ午前九時三十分頃同地ニ着陸シ閻ハ何人ニモ氣付カル、コトナク單身徒步着陸場ヨリ約二里ヲ距ル傅作美<sup>義</sup>ノ庵ニ入レル趣ナリ、機ハ油ノ補給ヲ得テ午後二時二十五分頃同地發約四時間ヲ費シテ歸着シタル趣、同人ハ飛行ニ際シテハ概々約三千米突程度ノ高空ヲ飛翔シ且市街地及密集部落ヲ避ケタルヲ以テ他ニ關知セラル、如キ虞ハ絶對ニナカルヘキ確信ヲ有スル旨語レリ

之ヨリ先四日午後十時半頃本官ハ前記麥田及閻ノ秘書某力同日中關東軍ニ至リ新井參謀ト打合ヲ了シ五日午前三時頃周水子發閻一行ヲ飛行機ニテ大同ニ運フトノ情報ニ接シタルヲ以テ關東州ヲ政治的隠謀ノ策動ニ利用スルコトナカラシムル爲之ヲ阻止スルコトニ決心シタルモ呶々荒立チタル阻止ヲ行フニ於テハ當然斯ル企ノアリシコトヲ外部ニ洩ル、虞モアリ甚タ面白カラス且ソ切迫シタル時間内ニ其目的ヲ達スル方法トシテ計畫ヲ實際上防止シ得ル立場ニアル新井參謀ヲ統卒監督スル軍司令官代理三宅參謀長ヲ抑ヘテ事ヲ

未然ニ防止セシムルニ如カスト信シ直ニ警務局長ヲシテ參謀長ニ交渉セシメ更ニ本官自身參謀長ニ對シ言葉ヲ盡シテ參謀長ニ交渉セシメ更ニ本官自身參謀長ニ對シ言葉ヲ盡シテ

### 第八六號（至急）

閻錫山力飛行機ニ搭乗シテ大同ニ赴キタル報ニ關シテハ概略ノ事實ヲ以テ報告ニ及ヒ置キタル處麥田ハ周水飛行場内日本航空輸送株式會社所屬格納庫ニ格納シアリシ豫備旅客機（登録記號E.J.D.O.）ヲ密カニ引出シ自ラハ操縱指揮監視ノ指導者トシテ乗込ミ四日未明夜隱ニ乗シ無斷飛行セルモノナルコト右旅客機ノ所在不明ナリシ事實發見セラレタルニ基キ同社從業員ヲ嚴重取調ヘタル結果判明シタル次第ナリ、依テ更ニ取調ノ歩ヲ進メ居タル際午後六時二十分右旅客機周水ニ歸着セルニ付取押ヘ直ニ機体點檢ヲ行ヒタル處座席ニ取り外シ補助油槽ヲ取付ケ同時ニ國籍記號登錄記號ヲ塗抹シアリ搭乗人物ニ付麥田ニ問ヒ訊シタルニ閻錫山及同人秘書キンズイセンナリシコトヲ告白セリ尙飛行機ハ午前四時三十分針路ヲ同飛行場ヨリ福建方面ニ取り海ヲ超ヘテ更ニ開灘炭坑ノ煙ヲ左ニ微カニ遠望スル程度ニ

其深甚ナル注意ヲ喚起シ且ツ貴下ノ部下タル參謀カ本計畫ヲ左右シ得ル實際上ノ立場ニアルモノト認ムルヲ以テ之ヲ防止スルノ意思アレハ良ク之ヲ防止シ得ルノ關係ニアルモノナリト認ムルヲ以テ本官ハ特ニ實力ヲ以テ抗爭シ阻止スルノ態度ニ出ツルコトヲナササルニ付貴官ニ於テ之ヲ諒トシ防止ノ措置ヲ執ラレシコトヲ希望ス關東州ハ他國ノ内亂ヲ助長スル政治的策謀ノ形跡ヲ留ムルコトハ本官ノ斷シテ許ス能ハサル旨ヲ卒直且明白ニ通告シタルニ同參謀長ハ種々陳辯ノ上何トカ看過セラレ度シトノ意味合ノ言葉ヲ述ヘタリシモ到底本官ノ意ヲ諷ヘシ難キヲ察シテ遂ニ本官ノ意向スクリアル上ハ情報主任（新井參謀）ヲ呼寄セ協議致スヘント答ヘタリ、五日午前零時半頃ノコトナリ依テ本計畫ハ同參謀長ノ思慮アル裁量ニ依リ未然ニ防止セラルヘモノト固ク期待シタルニ五日午前中同參謀長ハ來廳シテ前夜ノ御意圖ヲ麥田ニ傳達セント其所在ヲ遍ク搜索セルモ遂ニ見當ラス爲ニ傳達ノ機會ヲ逸シタリト本官ノ期待ト全ク相反シタル釋明的挨拶ヲ爲セリ

斯ノ如ク本計畫ハ軍參謀ノ任ニアルモノト豫備航空兵將校タル前記麥田トノ間ニ外部ノ窺知ヲ許ササル狀態ノ下ニ企

テラレ麥田ハ先月下旬上京四日内地ヨリ歸満シ即夜軍司令部ヨリノ電話ニ促カレ計畫ヲ實行シタル次第ニテ遂ニ本官ノ意圖ノ行ハレスシテ此結果ヲ見タルコトハ最モ遺憾措ク能ハサル處ナリ

之力善後措置ニ付テハ近日上京親シク御指揮ヲ仰ク所存ナリ

拓務大臣へ轉報ヲ請フ

935 昭和6年8月8日 塚本閑東長官より  
幣原外務大臣宛（電報）

閻脱出に關し麦田以外に軍の関与あるが如き新聞報道取締り方につき打合せ願いたきについて

旅順 8月8日前發  
本省 8月8日前着

第八八號（至急）  
往電第八六號ニ關シ

大阪朝日新聞支局ヨリ大阪本社宛ノ電報ニ曰ク「七日天津發太原ヨリ當地山西要人ヘノ來電ニ依レハ大連ニアリシ閻錫山ハ五日午後五時某國ノ飛行機ニテ大同ニ到着シタルカ

936 昭和6年8月8日 在中国重光公使より  
幣原外務大臣宛（電報）

閻脱出に日本官憲の関与はない旨宋に内報方訓令  
支、北平、奉天、南京、漢口、廣東、天津へ轉電セリ

第二八四號（暗、至急 極秘）

天津發閑東長官宛電報第一三號ニ關シ

閻錫山ノ閑東州脱出ハ早晚南京側ノ知ル所トナルヘシト存スルニ付此ノ際宋子文辺リニ

「閑東廳ニ於テハ豫テ閻錫山ノ行動ニ對シ厳重注意中ナリシ處五日未明閑東州ヲ脱出シタルコトヲ發見シ目下事情調査中ナルカ我官憲ニ於テ之ニ關係シ居ラサルコトハ確實ナル旨」

内報シ置カレ度シ

閑東長官、北平、天津、奉天、濟南ニ転電セリ  
漢口、廣東、南京ニ轉電シ上海ニ暗送アリ度シ

937 昭和6年8月8日 币原外務大臣より  
塚本閑東長官宛（電報）

閻脱出に我が軍部閻与の記事掲載禁止について

本省 8月8日後6時35分發

第五三號（暗、大至急 極秘）

貴電第八八号閻錫山閑東州脱出ノ件ニ關シ

貴見ノ通り本件ニ軍部ノ関係アルカ如キ記事ノ新聞通信掲載ヲ禁止セラレ度右拓務省ト打合ズミ

各將領ハ俄ニ活氣付キ目下軍事會議中トアリ其他天津ヨリ當地各方面ニ閻ノ在否問合ノ電報這入り居ルニ付閻ノ飛行機ニテ大同ニ運ハレシコトハ相當世間ニ傳ハルモノト豫測サル當廳トシテハ事情切迫致シ居ルニ付差向キノ處本件ハ結局航空會社麥田少佐ノ好意ナルコト迄ノ記事現ハルレハ已ムヲ得サルモノト認ムルモ夫レ以上軍ノ關係アルカ如キ記事ハ新聞通信掲載ヲ禁止スルコトセリ閻下ニ於テ右方針ニ御異存ナキヤ何分ノ御指示ヲ請フ尙御異存ナキニ於テハ記事取締ノ統一上内務省拓務省ト御打合願度シ追テ朝鮮總督ニハ接壤地ノ關係上直接當方ヨリ本件記事取締万電照シ置ケリ

支ヨリ上海へ轉電ヲ請フ

支、北平、奉天、南京、漢口、廣東、天津へ轉電セリ

938 昭和6年8月8日 在中国重光公使より  
幣原外務大臣宛（電報）

閻脱出に日本官憲の関与はない旨宋に内報方訓令  
支、上海、北平、奉天、南京、漢口、廣東、天津及朝鮮總督ヘ轉電セリ

第二八四號（暗、至急 極秘）

内務省トハ打合方取計中ナリ

支、上海、北平、奉天、南京、漢口、廣東、天津及朝鮮總督ヘ轉電セリ

938 昭和6年8月8日 在中国重光公使より  
幣原外務大臣宛（電報）

張群市長より閻の飛行機による山西帰還の情報

につき質問ありたるが事實無根と否定について

上海 8月8日後發  
本省 8月8日後着

第七三六號（極秘）

八日張群市長ニ會見ノ際同市長ハ閻錫山飛行機ニテ山西ニ歸リタリトノ情報アルカ事實ナリヤト問ヘルニ付本使ハ右ハ有リ得ヘカラサル處ナリト一笑ニ附シ置ケリ（其後ニ至リテ閑東長官ノ電報ニ接セリ）

北平、奉天、南京、漢口、廣東、天津、閑東長官ヘ轉電シ上海へ轉報セリ

939 昭和6年8月8日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

閻脱出については真相を嚴重に調査の上責任者を  
处分し禍根を将来に絶つを要する旨意見具申

奉天 8月8日後発 本省 8月8日後着

關東長官發閻下宛電報第八八號ニ關シ

本件ハ一部軍人ノ後援ノ下ニ他ノ關係方面ニモ渡リヲ付ケ  
計畫的ニ實行セラレタルモノナルヤニ察セラル節モアル  
ヲ以テ眞相ヲ嚴重ニ御調査ノ上責任者ヲ處分シ禍根ヲ將來  
ニ絶ソニ非サレハ昨今一部軍人ノ極端ニ不謹慎ナル言動ニ  
鑑ミ更ニ重大不祥事ヲ誘致スルコトナキヲ保シ難シ爲念特  
ニ電票ス

支へ轉電セリ

940 昭和6年8月10日 币原外務大臣より  
塚本關東長官宛（電報）

閻脱出の記事差止をせず成行注視の方針について

上海 8月10日後発  
本省 8月10日後着

第七三九號（極秘）

貴電第二八四號ニ關シ

閻錫山ノ問題ハ曩ニ貴電第二四七號ノ趣旨モアリ宋子文  
(往電第六六九號) 及更ニ最近ニハ張群ニモ (往電第七三  
六號) 我方ノ態度ニ付明確ニ述ヘ置キタル次第ナルカ斯ル  
行爲ニ付我官憲ニ於テ關係シ居ラサル旨説明スルモ從來ノ  
事情ニ鑑ミ疑惑滿チ居ル先方ヲ何等納得セシムルニ足ラサ  
ルヘシ此ノ種事件ニ付テハ我政府ニ於テ直接關係セル者ハ  
勿論其他間接ノ責任者ニ對シテモ充分嚴重ニ責任ヲ問ハル  
ル決心アルモノト想像セラル右ノ御決心ヲ遂行セラル、ニ  
アラスンハ民國側ハ勿論我方ニ對スル世界ノ疑惑ヲ解キ難  
ク國家ノ信用ニ重大ナル損失ヲ招クハ申迄モナシ右切ニ御  
考量ヲ祈ル

奉天へ轉電セリ

（付記）  
麥田ノ處罰方ニ關スル件

第五四號（暗、極秘級 至急）  
本省 8月10日後7時30分発

往電第五三號ニ關シ

内地新聞ノ記事差止方ニ付内務省當局ト打合セタルニ全省  
當局ハ斯種記事ノ差止ヲ新聞社側ト懇談スルコトハ反テ敷  
蛇トナル虞アリトノ見解ヲ持シ居ル處本件ニ軍部ノ關係ア  
ルコトハ貴地方ヨリ通信ナキ限り目下ノ所内地新聞ニ於テ  
承知シ居ラサル模様ナルニモ顧ミ差当リ差止ヲ行ハス成行  
ヲ見守ルコトヽセリ

右拓務省ト打合スミ

支、北平、南京、上海、奉天、天津、濟南、漢口、廣東  
及朝鮮總督ニ轉電セリ

941 昭和6年8月10日 在中國重光公使より  
幣原外務大臣宛（電報）

閻脱出につき責任者の嚴重処分方具申について  
付記 八月十三日亞細亞局第一課作成  
「麥田ノ處罰方ニ關スル件」

一、麥田ノ行動ハ左ノ刑罰ニ觸ルモノト認メラル  
麥田ノ行動ハ左ノ刑罰ニ觸ルモノト認メラル  
二、航空法（本法ハ勅令ニ依リ關東州ニモ施行セラル）第  
三十三條ノ規定ニヨレハ「國外ニ至ル航空機ハ行政官  
廳ノ指定スル航空路ニ由リ航空スヘシ」トアリ越境飛  
行ハ豫メ行政官廳ノ許可ヲ受クルヲ要シ右ニ違反セル  
者ハ同法第五十七條ニ依リ「三年以下ノ懲役又ハ三千  
圓以下ノ罰金ニ處セラル」

三、麥田ハ飛行機ノ國籍記號ヲ抹殺シテ航空セル趣ナルカ  
右ハ航空法第五十五條第三項ノ規定ニ該當シ「三年以  
下又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處セラル」

四、麥田ハ飛行機ノ國籍記號ヲ抹殺シテ航空セル趣ナルカ  
右ハ航空法第五十五條第三項ノ規定ニ該當シ「三年以  
下又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處セラル」

五、尙麥田ノ航空ハ關東州要塞地帶ニ關スル法規ニ觸レタ  
ルヤ否ヤニ付テハ麥田ハ單ニ要塞地帶上空ヲ無害飛行  
シタルニ止マリ且又彼力主裁<sup>セ</sup>スル日本航空輸送會社大  
連出張所ハ豫メ一定期間周水子飛行場及其附近飛行ノ  
許可ヲ取付ケヲルモノト推察セラル關係モアリ余程  
問題ナリ

我國法上個人外國ノ政治ニ干與スルヲ禁止スルノ規定ナク從ツテ麥田ニ對シテモ内亂幫助ノ廉ヲ以テ刑罰ヲ課スルヲ得ス

943 昭和6年8月12日 河相(達夫) 関東庁外事課長より  
守島亜細亞局第一課長宛  
閻脱出に關し三宅參謀長の証明等について

河相生 河相(達夫) 関東庁外事課長より  
守島亜細亞局第一課長宛

極秘親展

942 昭和6年8月11日 塚本関東長官より  
幣原外務大臣宛(電報)

閻脱出に関する新聞通信取締り方に関する朝鮮總督府警務局長との打合せについて

閻脱出に関する新聞通信取締り方に関する朝鮮總督府警務局長との打合せについて

守島僚兄 侍史

河相生

942

昭和6年8月11日 塚本関東長官より  
幣原外務大臣宛(電報)

閻脱出に関する新聞通信取締り方に関する朝鮮總督府警務局長との打合せについて

閻脱出に関する新聞通信取締り方に関する朝鮮總督府警務局長との打合せについて

閻脱出事件ニ付テハ當時知リ得タル断片的動機ヲ慌シク惡筆ニ報告シテ置イタ御判読ヲ得タ事ト思フ其後長官カラ外務大臣宛電報報告ノ次第モアリ事件ノ梗概ハ既ニ御承知ノ事ト思フ長官ニハ御進メモシタカ今十二日大連出帆上京サレタ着京ノ上委細ノ説明モアロウ電文ニ出テイナイナエ端折ツテアル矣ニ付テノ釋明モアロウ尚昨日小生長官ノ命ニ依リ本件内田總裁ニ御報告申上ケタカ其節同席御聽取下スツタ川越總領事カラモ委細小生助言トシテ聽取ラレタ事ト思フ右テ大体貴兄ニ付テスル事ノ大体ハ盡キテイルノテアルカ今日他用テ三宅參謀長ヲ訪問シ同氏カラ本件ニ關スル軍ノ關係ニツキ釋明ヲ得タ之ラモ參酌シテ左ニ二三

閻錫山大連脱出ニ關スル新聞通信取締方ニ關シ當廳ヨリ七日夜朝鮮ニ對シテハ軍部ニ關係アルカ如キ記事ヲ掲載シタル新聞通信ノ發賣頒布ヲ禁止スルノ方針ヲ執ラル様依頼シ置キタル處昨日朝鮮警務局長ノ電報ニ依レハ本件掲載セサル様管下發行責任者ニ懇談シタル趣ナルニ付本日重ネテ當廳トシテハ言論機關ニ刺戟ヲ與フヘキヲ慮リ特ニ前以テ懇談スルノ方法ヲ避ケ前電ノ通り七日夜具體的ニ記事ノ現ハレタル新聞通信ノ發賣頒布ヲ禁止シ當分此ノ儘ニ致ス豫定ナル旨電報申シ送リタリ爲念

追報スル喧噪過キテノ棒チ切りテアル

一、事件阻止ノ為ニ何故小生ヲ協議ニ参加セシメラレナカツタカ  
長官ハ何分夜中ノ事トテ氣ノ毒テオ呼ヒシナカツタト釋明サルルカコレ丈ケテハ満足出来ナイ理窟ヲ云ヘハ云ヒ分モアロウガ長官ノ意中ヲ忖度シテ今ハ云ハヌ察スルニ長官ハ本件ニハ警務局側カチト臭イト睨ムテ内輪ノ揉メヲ避クル為又小生ヲ呼ハストモ處置出来ルト考ヘ業ト呼ハレナカツタ事ト思フオ参酌力仇ニナツタ事ハ長官モ後悔シテ居ラレタ

二、本件ニハ中谷、(或ハ)松田高等課長、久下沼沙河口警察署長ハ少ナクトモ眼ヲツムテイタト断セサルヲ得ナ

イ其理由ハ

(1)新井ノ三宅ニ對スル報告ニ據レハ新井ハ飛行機賣却問題ノ後或ハ麦田カ飛ムテ閻ヲ運ヒ去ルカモ知レムト松田ニ話シタ處松田ハ夫レハコツソリトヤツテ釋明ヲ要スルトキハ練習飛行ト云ヘハイイサト述ヘ差支ナシト同意シタル事アル由  
(2)四日夜斬、麦田両名事前新井ヲ訪問シ愈々決行トキメ

カ云ヒ得ヨウ

(3)<sup>(4)</sup>新井ハ參謀長ニ対シ沙河口ハ事前ヨリ本件ヲ承知シ居

レリト報告シテ居ル

(4)<sup>(5)</sup>參謀長ハ十七日以降本件計劃ニ至ル迄ノ間ノ情報ハ總

テ新井ヨリ松田ニ與ヘテアリ參謀長ヨリ嘗テ去ル宴會

ノ席上中谷ニハ此事ヲ通シ置ケリ中谷君モ承知ノ筈ト

云ヒ居レリ

(5)<sup>(6)</sup>松田ノ新井ノ報告ヲ得タルハ午後八時中谷カ長官ニ報

告セル八十時半頃此ノ間ノ二時間半ハ何ニ費シタリヤ

疑ナキ能ハス

(6)<sup>(7)</sup>參謀長ノ小生ニ語ル處ニ據レハ中谷カ長官ノ命ヲ受ケ

參謀長ヲ訪問セル際新井ハ只事件ノ媒介ヲナセルニ過

キス之ヲ止メラルト否トハ貴方ノ御決定ノマヽト云

ヒタル處中谷ハ私ノ方テ處置シマスト答ヘタル由然ラ

ハ長官ノ意図ハ別トシテモ少クトモ午前三時ニハ人ヲ

周水子ニ派シ居ルヘカリシ筈ナリ何等ノ手配ヲモシナ

カツタ事ノ説明ハツカナクナル

三、參謀長ノ口吻ヲ察スルニ軍部テハ廣東ノ財政鞏固ヲ信

シ九月頃ニハ廣東ト閻馮ト呼応シテ立ツモノト期待シテ

居リ閻ヲ山西ニ帰還セシメタ事ハ成功ト思ツテイルヨウ  
テアル

944 昭和6年8月12日 在中國重光公使より  
幣原外務大臣宛(電報)

以上

閻脱出問題で宋子文、張群に証明したる事  
ろ何れも沈黙で対応について

上海 8月12日後発  
本省 8月12日後着

第七四〇號(極秘)

貴電第二八號ニ關シ

宋財政部長及張市長等ニハ從前ノ行懸リモアリ右貴電ノ趣旨ニ依リ釋明シ置キタルカ先方ハ何レモ沈黙ヲ以テ之ニ對セリ尙當地ノ民國系新聞中ニハ大連ヨリ日本ノ飛行機ニ依リ閻ヲ送リ届クルカ如キハ明カニ日本政府ノ聲明セル内政不干涉主義ニ反スルノミナラス民國航空主權ノ侵害ナリトノ趣旨ニテ本問題ヲ日本ニ對スル反感助長ニ利用シ居ルモノアリ

北平、奉天、天津、濟南、漢口、廣東、南京、關東長官ニ  
轉電シ上海へ轉報セリ

945 昭和6年8月13日 三浦(直彦)閻東長官代理より  
幣原外務大臣宛(電報)

閻脱出に関する日本向けの通信社電報について

大連 8月13日後発  
本省 8月13日後着

第二五七號(親展、極秘)

閻氏大連脱出事件ニ關シ昨日當地ヨリ内地方面ニ宛テタル左記四件ノ通信電報遞信局ニ於テ受附ケタルヲ以テ各々括弧内ノ通信文ハ之ヲ切除シテ發信シタリ

(一)大毎本社宛旅順近畿通信員前五時半發

長官今回ノ上京ハ出シ抜ケテ時節柄注目ヲ引イテ居ル仄聞

スルニ對支時局問題テ(軍司令部ト露骨ナ意見ノ扞格ヲ來

シ現ニ閻錫山ノ飛行機山西行ニ關スル態度ノ如キハ如實ニ

之ヲ物語ツテ居ル長官ハ之カ動機テ招電ニ接シタモノトモ云ハレテ居ル

(二)大毎本社宛大連支局後五時發

モ云ハレテ居ル

近來滿蒙ヲ中心トシテ日支關係カ愈々尖銳化セントシテ居ル折偶々關東州内ニ亡命シテル閻カ北支那時局ノ動キニ投スヘク突如非常手段ニ依リテ大連ヲ脱出シタ事カラ(端ナクモ我對滿政策ニ關シ外務省乃至關東廳ト軍部當局トノ意見ノ背馳ヲ暴露)スルニ至リ之力爲塚本關東長官ハ政府ト打合セ其善後策ヲ講スル爲十二日急遽東上シタカ閻氏ノ大連脱出事件ニ關シハ種々ノ流說アリ(塚本關東長官ハ進退ヲ決意シテ東上スルトサヘ傳ヘラルニ至シタ)而シテ其結果現内閣カ外交上ノ内部不統一カラ非常ナル難局ニ逢着スヘク觀測サレルト共ニ某重大問題ニ關スル塚本長官ノ報告ト政府ノ局面收拾如何ハ定メテ注意スヘキモノカアル

(三)中外新報社宛大連川島(カシマトヨマル)後八時發

大連亡命中テアツタ閻錫山氏カ三日朝大連周水子飛行場ヨリ單身(日本航空會社)飛行機ノ人トナリ山西入リノ離業ヲ行フタニ付テハ時局柄支那側ノ注目ヲ引イテ居ルカ閻氏ノ山西入りニ付テハ(關東軍司令部最高幹部ノ了解ニ依ルモノニテ右ハ關東廳ノ阻止アルニ拘ハラス軍當局ノ獨斷ニ依リ決行サレタ事判明シ端ナクモ關東廳ト軍當局トノ間ニ確執ヲ生シツツアリ右ハ)内地ニ於ケル政府對陸軍問題

ニ關聯シ將來對内的及對外的ニモ重大ナ結果ヲ招來スルモノト見ラレ殊ニ十二日朝急遽塙本關東長官力上京シタノハ右ニ關スル重大用件ヲ帶ヒルモノトシテ注目サレテ居ル四福岡日日新聞社宛大連マタノギロー後五時發塙本關東長官力本日急遽上京シタルカ本月三日閻錫山カ山西ニ向ケ飛行機ニテ脱出シタル（件ニ關シ重大）事件（ヲ生シ責任ヲ負フモノ）ト觀測セラル

發信先 外務、拓務兩大臣  
轉電先 警保局長、朝鮮警務局長、在京關東長官、

載ヲ差止ムルコトハ形式ニ於テ取締ノ公平ヲ失スルノミナラス獨リ朝鮮ノミ言論機關ニ對シ制限ヲ加フルノ嫌ヒアルニ依リ本日一應解除ノ上將來帝國軍部ト關係アルカ如キ記事ヲ掲載シタル場合ニ於テノミ關東廳同様相當取締ヲ加フルコトトセリ爲念

946 昭和6年8月17日 池田朝鮮總督府警務局長より  
谷亞細亞局長宛（電報）

946 昭和6年8月17日 池田朝鮮總督府警務局長より  
谷亞細亞局長宛（電報）

947 昭和6年9月3日 在中國矢野公使館參事官より  
幣原外務大臣宛（電報）

### 閻錫山の山西聯盟問題に関する諸情報の総合

報告について

北平 9月3日後発  
本省 9月3日後着

第三八一號  
往電第三七二號ニ關シ

昭和六年八月十日附新聞記事懇談ニ關シ電報セン閻錫山大連脱出事件ハ内務省並ニ關東廳管下ニ於テハ新聞通信社ニ對シテハ掲載差止等ノコトナク單ニ朝鮮ニ於テノミ之力掲

閻ノ山西聯盟問題ニ關スル諸情報ヲ綜合スルニ左ノ如シ一、今次各將領ノ會議ニ於テ閻錫山、馮玉祥ノ山西退去ニ付討議ノ際徐永昌ハ閻ノ希望山西省將領ノ意見ヲ代表シテ極力閻ノ現狀維持方ノ諒解ヲ求メタル處奉天側ハ餘り强硬ナラサルモ中央側ヨリハ飽ク迄閻馮ノ追出ヲ求メ來リ韓亦

中央ニ對スル手前モアリ且閻トハ客年武力衝突アリ又閻ノ退去ニ伴ヒ馮モ退去スルコトナルヘキ等ノ理由ニ依リ中央ノ主張ヲ支持シ結局大体（一）先ツ馮ニ對シ自發的ニ山西退去方勸告スルコト但シ行先ハ外國ニ限ラス天津又ハ北平ニテモ差支ナシ（二）若シ右勸告效果無キニ於テハ更ニ河北山東河南ノ將領ニ於テ勸告通電ヲ發ス（三）最後手段トシテ已ムヲ得サレハ武力ヲ用フルコト

ヲ決定セル由

二、右第三段ノ場合ニ於テモ中央トシテモ俄カニ武力壓迫

ヲ加フルコトハ事情許ササルヘク奉天側モ山西軍カ積極的反抗態度ニ出テサル限り目下ノ所進ソテ武力解決ヲ企ツル如キコトハ想像シ難キヲ以テ（尤モ一部ニハ奉軍ノ對山西移動説傳ヘラレ居レリ）韓ノ離平（二日）ト共ニ本件ハ差當リ有耶無耶ニ終ルニ非スヤト見ルモノ多シ支ヨリ上海へ轉報アリタシ支、南京、廣東、青島、濟南、天津、奉天へ轉電シ鄭州、張家口へ暗送セリ